

令和5年度 江戸川区立鹿本中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自律 (自らを律し、主体的に活躍できる生徒) ・敬愛 (お互いを敬い、協働できる生徒) ・探求 (自ら学びに取り組める生徒) 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図る学校。社会に通用する規律を重んじる学校 ・正しいあいさつが、あたりまえに交わされる生徒。他を尊重しながら行動できる生徒。 ・生徒の個性を伸ばせる教師。自らの行動に責任を持てる教師。
--------	---	--	---

前年度までの学校経営上の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <成果>・学校教育目標を改訂し、皆が覚えやすい内容になった。 ・ICT機器の活用を、どの教科の授業でも実施できるようになった。 <課題>・デジタル機器を活用して校務改善を図り、教員の働き方改革に役立てていく。 ・鹿本学園との交流学習を充実させる。 ・エンカレッジルームの活用方法の見直し。
-------------------	--

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着と学習意欲向上を考えた学習コンテストを国語・数学・英語で実施する。 ・学習コンテストや定期考査前に放課後に補習授業を行う。 ・年間を通じて業者による数学・英語の放課後補習教室を実施する。その際、対象生徒は教員より選出し、本人保護者の希望を取って実施する。 ・ミライシード強化月間を設け、活用率を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習コンテストでは3教科それぞれの合格者を80%以上とする。 ・全学年ともに補習授業を年35回以上実施する。 ・放課後補習教室への参加率を60%以上とできるように支援していく。 ・ミライシード活用者が全校の80%以上を目指す。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習コンテストの合格率は国語91%、英語68%、数学71%であった。 ・全学年、実施できた。 ・10月以降参加率が下がってきたが60%以上の参加率では実施できた。 ・ミライシード活用者80%以上は1年生のみ達成でき、全校では80%に届かなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの取組について来年度も継続した指導を進めてほしい。 ・高校受験に向けて、学力は大事である。 ・日々の授業が楽しく、達成感を得られるように取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語と数学の学習コンテスト内容について検討し、合格率を上げて基礎学力定着を図る。 ・補習授業や放課後補習教室は継続して実施していく。 ・ミライシードは家庭学習で活用できるよう工夫していく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時より探究的な学習を計画的に取り組ませ、3年次で成果物として発表できるようにする。 ・行事に向けた事前学習を実施する際、区立図書館と連携し、関連書籍の借入れなどを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果物の完成80%以上を目指す。 ・図書への借入れなど年間に複数回実施する。 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会で3年がピリオパトルの発表を行った。成果物の取組は3学期になってしまった。 ・図書の借入れは今年度実施できなかった。年度初めにしっかりと計画が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の取組に期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初にしっかりと計画を立て、3年での成果物の取組を2学期までに実施できるようにする。また、図書の借入れも計画を立てて行う。
	<授業力の向上> ・教育機器を活用した授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科でICT機器や音響などの機材を活用し、生徒にとってわかりやすい授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科ICT機器などの活用100%。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容にもよるが、全ての教科でICTの活用が見られた。ICTの校内研修会も年3回実施し、活用の幅が広がってきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組むことを望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」となるように ICTを効果的に活用していく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業における補助運動を毎時間実施する。 ・年間を通じて、雨天時の昼休みに学年ごとローテーションで体育館を解放する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助運動の実施は、100%を目指す。 ・特別な事由がない限り100%実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なく実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して体力向上に努める。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿本学園との交流を実施する。第三学年と生徒会役員会の交流及び本校行事への参加を促す。 ・巡回指導時や生徒に対する個別指導、不登校別室指導などをエンカレッジルームを活用して行う。 ・特別支援学級生徒のニーズに合わせた交流学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流は年間三回以上実施する。 ・エンカレッジルームの活用は年間を通じて行い、部屋の使用状況がわかるように表示する。 ・生徒や保護者との面談の上で年間を通じて実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1月に1年生と5組が、鹿本学園中等部と鹿本小学校6年生を招いて百人一首大会を開催。 ・エンカレッジルームの有効活用はできている。不登校の別室指導については整備が必要である。 ・鹿本学園との副籍交流も直接交流で実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿本学園との交流がコロナ以前に戻り、喜ばしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ようやく交流が再開できたので、工夫しながら進めていく。 ・不登校別室指導について、エンカレッジルーム以外の場所に教室整備をする。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への早期対応と、関係機関との連携を図り、組織的な支援を行う。 ・生徒が話したい教員を選出し実施する相談週間を設ける。 ・hupaer-QUを活用し、学級や学年の心の環境を整え、生徒間の望ましい人間関係を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の出現率を5%以内にする。また、どこにもつながりのない不登校生徒をゼロにする。 ・生徒がアンケートに「学校に相談できる人がいる」と回答する値を80%以上。 ・年間2回のhupaer-QUを実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の割合は通常学級で5%以内を達成できている。5組の不登校の割合が高いのが課題である。つながりのない不登校生はゼロにできなかった。 ・生徒アンケートの結果は82.5%で達成できた。 ・年間2回のhupaer-QUを実施して活用した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対応はもちろんのこと、いじめや家庭内暴力等の把握をしっかり行い、一人一人の生徒を大切に丁寧な指導を今後も継続してほしい。 ・先生方が負担にならず、やりがいをもってできるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒については、不登校対応コーディネーターや不登校対応巡回教員を中心に、別室指導の整備を行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどによる協力体制を強化する。
	<生徒の意見を取り入れた教育活動> ・生徒の意見に真摯に対応し、生徒・教職員が一体となって教育活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組に対して生徒からの意見を聞き、多くのことを採用できる流れをつくる。 ・SNS鹿中ルール、タブレットルール、校則見直しなど、様々な問題や課題に対して、生徒からの意見も聞き子どもたちに見合った取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や学校の取組に生徒の意見を取り入れたものをいくつか作り上げる。 ・生徒会役員を中心に投げかけ、生徒会役員から全校生徒に向けて発信、承認を取るようにする。特に生徒が直接関わるSNS関係、タブレット、校則の3点について必ず実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活をより良くしていくために生徒会役員と校長が話し合いの場をもった。生徒の意見を大切にしていきたい。 ・タブレットの使用に関しては、生徒会役員から全校生徒に向けて発信し、ルールを守った使い方ができている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の活発な活動で、より良い学校にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実を図り、生徒の意見が反映される学校づくりを推進する。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの連絡だけではなく、PTA活動の通知なども連絡メールや学校ホームページに随時掲載する。 ・保護者や地域の方々だけでなく、学校選択のために小学生やその保護者の方々にも参観していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、各行事ごと適宜に配信・掲載を行う。連絡メールは「tetoru」を活用し、朝の欠席連絡も「tetoru」で50%以上が連絡できるようにする。 ・年間3回(各学期1回)実施する。そのうちの1回は、学校公開週間として土曜日も含め6日間公開する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「tetoru」の活用を広げることができた。朝の欠席連絡も「tetoru」で連絡してくれる保護者が多く、教職員の働き方改革にもなっている。ホームページの充実が課題である。 ・予定通り実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「tetoru」の導入は良かった。 ・今後も学校の取組の積極的な発信に努めてほしい。 ・吹奏楽部の活躍は素晴らしい。地域での演奏活動も積極的に行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実を図る。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会を学校公開に合わせ実施し、生徒の活動を直接目にしていただく機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会を年間を通じ、3回以上実施するとともに校内の行事をお知らせし、参観できる機会を増やす。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通りに学校評議員会を開催し、生徒たちの活動についても参観していただく機会をもつことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校には協力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見をたくさん頂き、学校運営に生かしていく。
	<校則などの見直しについての検討助言> ・社会一般に広がる校則などについて、保護者・地域としての意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなどを通じ、校則などについての意見を保護者や地域関係者より聞き取り、変更の参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間1回以上のアンケート実施と、年間3回の学校評議員会での意見聴取を行う。標準服の変更も検討していく。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、大きな校則変更は考えていない。標準服は将来的に変更も視野に入れているが、体育着登校を減らしていくことが当面の課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の意見も聞きながら進めてほしい。 ・教室での授業は制服で受けるのが好ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セーラー服のスラックスを導入することで、標準服を着る機会を増やし、体育着登校は廃止する。標準服の変更は時間をかけて検討していく。
特色ある教育の展開	<インクルーシブ教育の推進> ・三つの学級(通常学級・特別支援学級・難聴学級)の特性を活かした教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等での交流を通して、それぞれの障害に対する理解を深め、より良い人間関係の構築を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、学習発表会、合唱コンクールの三大行事では、三つの学級を含めた全体で実施し、交流を深める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、学習発表会、合唱コンクールを学校全体で実施でき、交流を深められた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな行事が制限されることなく実施できることは喜ばしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していく。さらに充実した内容にしていく。
	<学校における働き方改革> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一斉退勤日を設定するとともに、管理職自ら早めの退勤や休暇の取得を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回一斉退勤日を設ける。指導の状況によりその日にとることができないものについては、個々に別日に設定する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね早く退勤することができているが、特定の教員に仕事が偏らないように配慮するなど今後も工夫していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうど良いバランスで働いて早く帰れるようにして、先生方の負担が大きくなりすぎないようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員からの意見も聞きながら、負担を削減できることは実行していく。